

2024. 10. 1

歴史民俗資料館だより No.156

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

秋の特別企画展

～米沢藩士の見た二百年前の長崎展～

会期 10月17日(木)～12月8日(日)

展示品 米沢藩士伊東昇迪の「長崎風俗図」パネル・解説文・掛軸・紅毛雑話・清俗紀聞・長崎聞見録などの展示 約100点

はじめに

文政9年(1826)6月に米沢藩・伊東昇迪は、江戸参府を終えたシーボルトに同行して長崎に来ました。道中世話になった今籠町の蘭内通詞菊谷藤太宅に宿泊し、菊谷の紹介で蘭通詞吉雄権之助、蘭方医岡研介に入門すると同時に、シーボルトの元に通い勉強しました。そして、文政11年(1828)2月、シーボルト事件の起きる前に帰国しました。昇迪の長崎滞在中の日記として、「寄陽日簿」があり、見聞したものがこの「長崎風俗図」に描かれています。

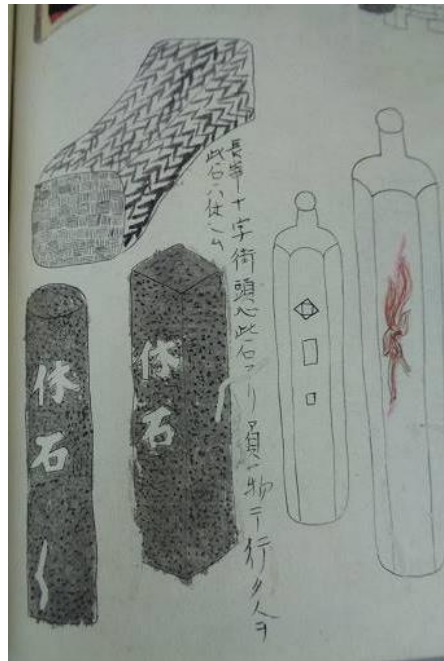
今回の展示は、この「長崎風俗図」を通して、200年前の長崎に想いをはせていただければと思います。

最後に、今回の展示に際しまして、石山禎一先生、梶輝行先生、由富章子先生、山口祥泉先生をはじめ、ご協力いただきました関係者各位に深く御礼申し上げます。

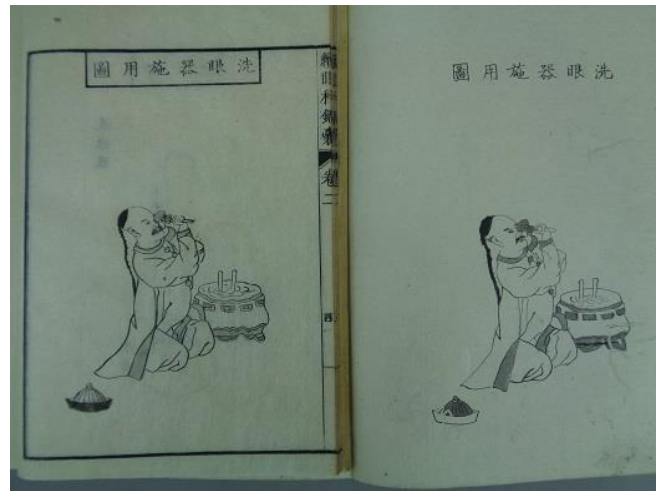


「長崎風俗図」 精霊船

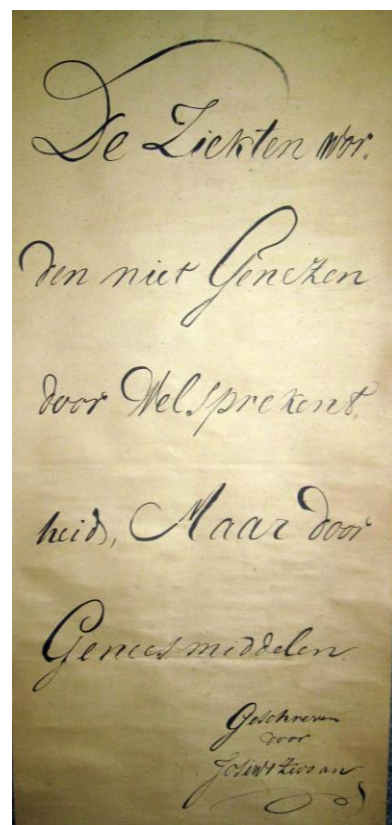
藁造、舳先、前方の小屋、後方の提灯など、現在と大分違いますが、流す所は、同じ大波止でした。



「長崎風俗図」 休石
荷物を背負った人を休ませました。現在、右の形が桜町に一基残っています。



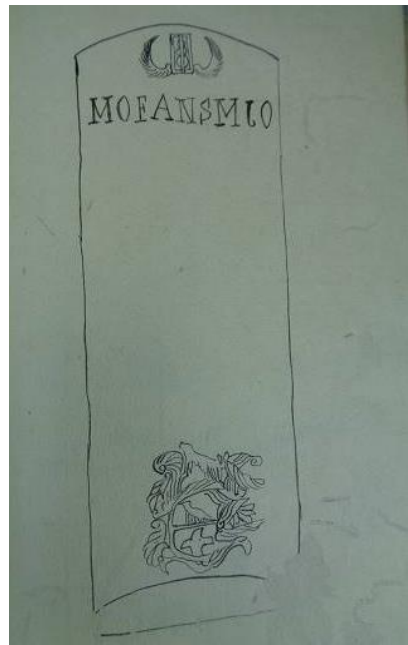
右「長崎風俗図」・左本庄晋一の「続眼科錦囊」天保8年(1837)ほぼ同構図です。



阿蘭陀通詞 吉雄権之助筆蘭文 江戸時代後期
吉雄耕牛の子で、シーボルトの研究を助けました。
本書は「病気は雄弁では治らない。薬で治る。吉雄如淵」と古代ローマの学者ケルサスの格言が記されています。



幕府役人田沢春房「長崎紀聞乾」文化五（一八〇八）
 悟真寺の阿蘭陀人カピタン之墓
 石垣がめぐらされています。



伊東昇迪「長崎風俗図」
 上部の砂時計と下部の花輪と羊と十字架図で、
 カピタンの墓と分かります。



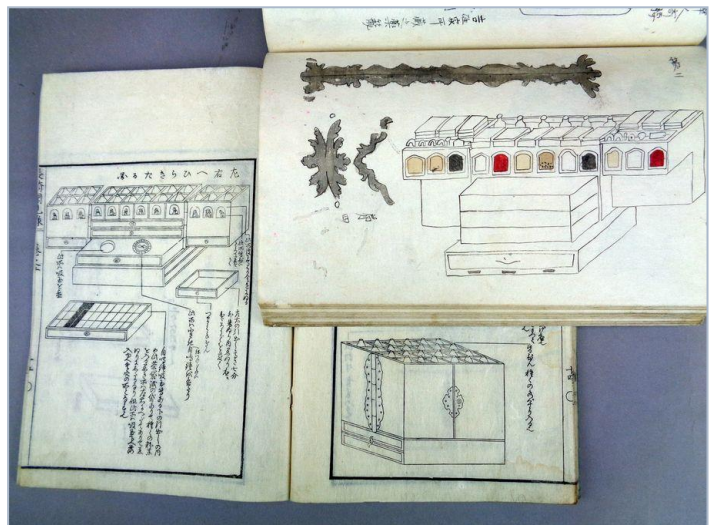
「長崎風俗図」
 文化元年九月六日入港 露西亞使節レザノフ図



「長崎風俗図」
 右に煎茶の涼炉、茶心壺、漆器盆
 左に石橋、眼鏡橋、西洋眼鏡とケース



右「長崎風俗図」 左「続眼科錦囊」
 器に薬を入れ、目を洗っていますが、左右図は、
 どこかが違います。



右上 「長崎風俗図」吉雄家所蔵薬籠の図
 左下 広川 憊「長崎見聞録五」寛政9年（1797）
 の紅毛人外科箱の図です。